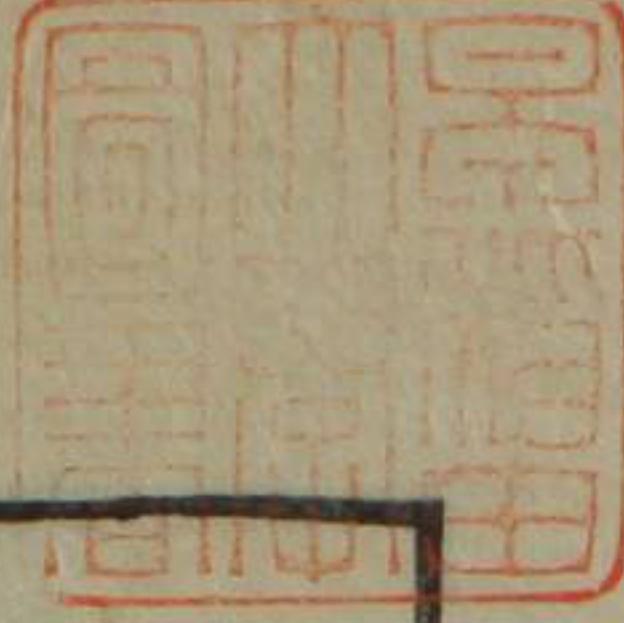
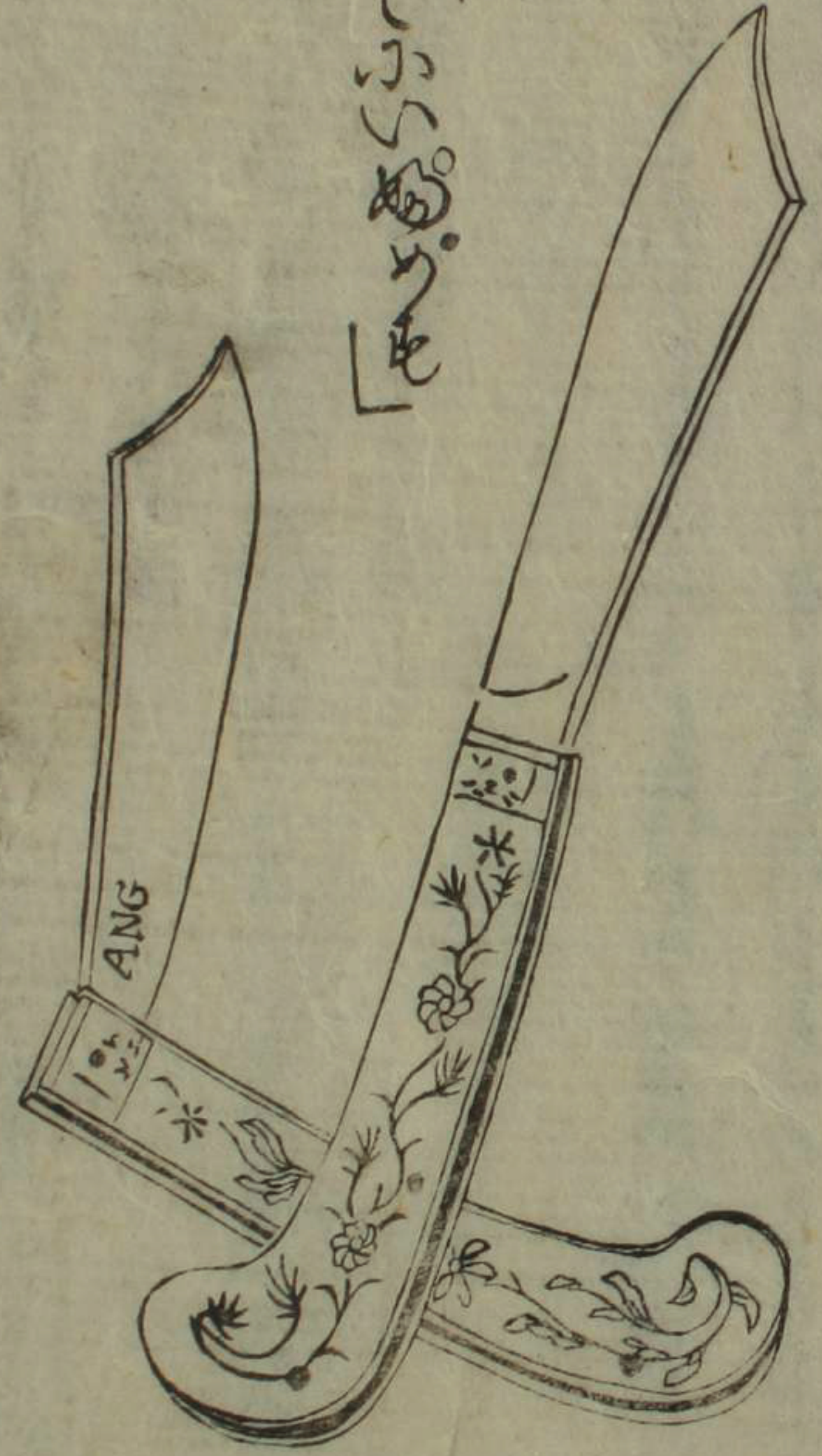


刀

十



井
刀
名
也



二
1516
2

○かんて

何くいくく 倭へかんてねとくよのわらう
と 荷蘭とのまりや

若ていくく 燭臺をかんてらあるとくよのわら
何くいくく

○ちしき

何くいくく 「さ」といふとくよのわらう
答ていくく あれとくよのわらう

つふ地よりおもものぞ上品とくよのわらう
いひまらをまわやゆとくよのわらう
かまらう

○織との類

何くいくく 織との類いろいろ 変名あく 呼ぶもの
了願くともお身をせしん
若ていくく 織との類いろいろ 呼ぶもの
あけん 「あけん」と 「あけん」

清人せいじんと喫ひつさ咬きうといふ上下と畧りやくと音譯おんやく字あり

「せいふくきん」と「せいふくぎん」せいんといふ

「せいふくぎん」といふは
「せいふくぎん」といふは

「せいふくぎん」といふは
「せいふくぎん」といふは

「せいふくぎん」といふは
「せいふくぎん」といふは

「せいふくぎん」といふは
「せいふくぎん」といふは

「せいふくぎん」といふは
「せいふくぎん」といふは

「せいふくぎん」といふは
「せいふくぎん」といふは

ひやゆいとのき

○むん

ひいひいひいひい人た食たをくむんといふ

すつらすつら作つくるものや

「せいふくぎん」といふは
「せいふくぎん」といふは

「せいふくぎん」といふは
「せいふくぎん」といふは

「せいふくぎん」といふは
「せいふくぎん」といふは

「せいふくぎん」といふは
「せいふくぎん」といふは

げんぐくまの天竺米を用う。飯は米を
 げんぐくとまいたとつゝ煮きり米とつゝ米なり
 「らん」といふは河内州のいづれに産する。行茶
 ともいふ。何れも少くとも并んぶ隣國拂郎察と
 つゝ國ともいふ。つゝのつゝのつゝのつゝのつゝのつゝ

○駝鳥食火雞

甲くいし〜かぶざらといふ。卵は八九合ほど
 入る大なる卵殻を酒注杯蓋をど〜遠くつゝものを

美らる人わりのつゝのつゝのつゝのつゝのつゝのつゝ
 美らる〜つゝのつゝのつゝのつゝのつゝのつゝのつゝ
 やらぶ〜とつゝのつゝの卵のつゝ「かあげ」のつゝのつゝ
 あり「も」のつゝのつゝのつゝのつゝのつゝのつゝのつゝ
 尾音と轉〜わやゆのつゝのつゝのつゝのつゝのつゝのつゝ
 加洲〜のつゝのつゝのつゝのつゝのつゝのつゝのつゝのつゝ
 わりら茶院ま〜のつゝのつゝのつゝのつゝのつゝのつゝのつゝ
 孫〜のつゝの卵なり。李東壁は本草〜のつゝ

所謂鸵鳥の卵なり此の世界的に禽類の
 巨鳥なりと云ふは卵杯蓋系より甚く大なる
 いまのゆを余流し一蘭腕捕芳中一因流を
 してまをせり

曰近年和蘭より多くとて鸵鳥と云ふ大鳥を
 そのかゝる法所より持わたりありて「カ」

いまの「カ」なりや カ

その種類ありて鸵鳥と云ふは李氏本草にハ

鸵鳥



其名「カ」と云ふは「カ」

卵

鳥類通考 一七

食火雞

本名「カザリ」



二鳥混しそ流をりや^{モウナ}中^{モウナ}一^{モウナ}流^{モウナ}あり食火雞
 とつもの^{カザリ}の^{カザリ}終^{カザリ}なり^{カザリ}そ^{カザリ}産^{カザリ}地^{カザリ}の^{カザリ}を^{カザリ}「カザリ」^{カザリ}
 駝鳥^{カザリ}の^{カザリ}形^{カザリ}状^{カザリ}は^{カザリ}か^{カザリ}し^{カザリ}て^{カザリ}顔^{カザリ}と^{カザリ}稍^{カザリ}小^{カザリ}なり^{カザリ}此^{カザリ}卵^{カザリ}も^{カザリ}又^{カザリ}
 付^{カザリ}か^{カザリ}る^{カザリ}大^{カザリ}な^{カザリ}ふ^{カザリ}ら^{カザリ}ぬ^{カザリ}あり^{カザリ}藍^{カザリ}水^{カザリ}田^{カザリ}村^{カザリ}先^{カザリ}生^{カザリ}一^{カザリ}竹^{カザリ}園^{カザリ}を^{カザリ}
 珍^{カザリ}藏^{カザリ}と^{カザリ}二^{カザリ}名^{カザリ}せ^{カザリ}り^{カザリ}洋^{カザリ}中^{カザリ}一^{カザリ}摘^{カザリ}芽^{カザリ}中^{カザリ}一^{カザリ}辨^{カザリ}し^{カザリ}と^{カザリ}け^{カザリ}
 〇がア

ア〜ツ〜ツ〜「びつ〜」と〜^{カザリ}壺^{カザリ}茶^{カザリ}の^{カザリ}味^{カザリ}甚^{カザリ}く^{カザリ}苦^{カザリ}く

教薬きやくとてあつらふとてたものとして後来きらい醫い法ほつ症しやう
 わき入い切きりつものとして後来きらいといふものもあつた
 考かう所しよか—松岡氏まつおかの先
 輩せい主治しゆぢと茶ちやをそのものを魚膽ぎょたんとて作つくつたもの
 なつんと説せつをいふとて西洋せいやうなる事ことをゆゑに荷か
 蘭人らんじん江戸糸向えとうの時毎ときごと—とて病ぢやうぬ回わいひ—人ひとわり
 金かねがなと事こと々々さまざま醫人いじんなり—質しやくさ—一人もこ
 持もちて—し—つものか—づと往年おととし彼洋あつち船ふねす—持もち
ひし

江戸—の—とて見けんし—とて元もと本國ほんこく—とて製せいせ
 ぶとのか—とて地ぢ方ぽうあり買かひれりある—とて—とて交かう
 易やすうと事こと々々さまざまなり—とて—とて人ひとか—百年ひゃくねんあ
 後ごと持もち渡わたりつかきとり—茶店ちやてんなど—とて貞享しんかう
 年とし—中なかつ—とて—とて病ぢやうとて病ぢやうとて病ぢやうとて病ぢやう
 子これ書かき裁せを—とて—とて症しやう—とて—とて甚しん奇き効きう
 あり—とて—とて—とて—とて—とて—とて—とて—とて—とて—
 按おし—彼邦あつちれ雅言がごん—とて膽汁たんぢゆを—とて「と」とい—と

「びり」と「びり」と「びり」乃 轉群 （えんぎ） して胆汁 （たんじ） 此 草 かな
 何とのうけ 膽汁 （たんじ） して 末茶 （まつちや） と 煉 （あぶ） して 其 名 を
 ひり （ひり） と 呼 （よび） する もの 也 詳 （まこと） あり 也

○みりり。うふとある。魚介しひきうる。

さあらん

何いとも 妙 （たぎ） あり して み （み） たら して 群 （ぐん） する 葉 あり なる け
 り 説 （せつ） 多 （た） し 一 （いつ） つか する もの 也 善 （ぜん） せい とい （い） う べ
 本 名 （ほんな） も み （み） あり とい （い） う 也 邦 （ほん） 国 （こく） とも 木 （もく） 乃 （の） 伊 （い） と 若 （わ）

澤 （さわ） も （も） とも 一 （いつ） 張 （ちやう） する 又 （また） 引 （ひ） ん とも 一 （いつ） つか する 葉 あり なる け
 本 （ほん） 名 （な） も み （み） あり とい （い） う 也 邦 （ほん） 国 （こく） とも 木 （もく） 乃 （の） 伊 （い） と 若 （わ）
 一 （いつ） と 一 （いつ） つか する 一 （いつ） つか する 一 （いつ） つか する 一 （いつ） つか する 一 （いつ） つか する
 傳 （でん） 一 （いつ） と 一 （いつ） つか する 一 （いつ） つか する 一 （いつ） つか する 一 （いつ） つか する
 説 （せつ） あり 平 （ひら） ち 一 （いつ） つか する 六 （む） 物 （ぶつ） 新 （しん） 志 （し） と （と） 一 （いつ） つか する 一 （いつ） つか する
 て 其 所 （そのところ） 一 （いつ） つか する 効 （き） 能 （のう） 一 （いつ） つか する 一 （いつ） つか する
 あり 一

○びりり

甲子のうへに近未世句「むぼく」と「むぼく」
 おどゆらそののわりとむぼくといふかきものや
 著し「けく」を著し本名「むぼく」を著しとわうと
 とつ又「むぼく」と「むぼく」といふかき「むぼく」に
 と甘草かんぞうはまなり此の甘草を「むぼく」はくそ
 膏こうとか「むぼく」のすう「むぼく」を「むぼく」
 むぼく」とわや「むぼく」なり疼飲諸症いたいんしよ凡て胸膈むね
 とゆらむぼく「むぼく」

○むらむら

甲子のうへに近未世句「むぼく」と「むぼく」
 むぼく人をむぼく「むぼく」
 著し「むぼく」此の森崑氏紅毛雜話「むぼく」
 おとらむぼく人をむぼく「むぼく」
 名「むぼく」
 〇むぼく「むぼく」

何くいそく種うへみや藝家げいけをてんしうぎをゆんしんふ
 わんぢやぶるふふきごかくしうませんき虫種むししゅけりく本
 名いふふしうや 毛けしうくをんしうど
 を「いんしうど」ふふきごを「ふふきご」あんぢ
 やぶるを「わんげりい」なつてん敷ふごま
 洋やうなす才さい月池法眼げつちほうがんの和蘭わらん薬撰やくせんくしう書しよよ
 わり

○おくらかんた

問曰おくらんきりふしういりせ
 毛けくいけく是こゝ此邦こくをてん津つ軽けい松しょうあけ地ち
 産えんより「ころ」に「いふ」の腹はら中ちゆうふまふ癖へんせき石いしし
 が「目めはくかんた」ハ「のんた」
 といふ直ちよくをて蝦えびけし目めといひし船ふねの和わ
 きりふるを名なげあししきり法ほふ切せき能のう蘭らん碗わん摘てき芳ほうの
 中ちゆう「洋やうしう」なり

おくふがんとん



○まろんがすてん

甲いんく「まろんがすてん」といふものといつかぶ
 まのりや 昔ていんくを「まろんが
 すていん」を「まろんが」を蛇の事「まろんが
 と石の事」蛇石といふ名をて大蛇の頭より生
 るる石といふるま名はありてとていふ安説ありて
 まろんがと製作ありてありて葉曉梅ありて
 けむづりて

○ びんざん

同くいはく「びんざん」のひん「びん」といふと
 のいふん 昔曰く「身を樹に脂なり」と
 うまむ「或は」ひんざんといふ又は「葉を」て「真の」
 「びんざん」といふは「功効」の「ひん」といふは
 「びんざん」といふは「身を」て「樹に」なり「今」
 方各と「なり」て「漢書」に「あり」て「製法」
 法を「記出」する「の」あり

○ むかきやいんぜん革

甲く「いんぜん」の「むかきやいんぜん」の「革」は「むかきやいんぜん」
 の「むかきやいんぜん」の「むかきやいんぜん」の「むかきやいんぜん」
 亞齊洲「に」属する地名として「びんざん」といふ
 「むかきやいんぜん」の「むかきやいんぜん」の「むかきやいんぜん」
 「むかきやいんぜん」の「むかきやいんぜん」の「むかきやいんぜん」
 「むかきやいんぜん」の「むかきやいんぜん」の「むかきやいんぜん」
 「むかきやいんぜん」の「むかきやいんぜん」の「むかきやいんぜん」
 「むかきやいんぜん」の「むかきやいんぜん」の「むかきやいんぜん」

名ありて其字を歐邏巴（オウロップ）の字よりとりて其字を
華の産所をいふなり

○カフキ

曰くワカフキを古来蘭牌（オランダ）の事と云ふは其の婦
女子（オランダ）就ぶ方（オランダ）の事なりと云ふは其の産所なりといふ
おのゝ事なりと云ふ

又ていふは彼西洋（オランダ）の言「カフキ」といふは牌（オランダ）の事と
いふは西洋（オランダ）の産所なりといふは其の産所なりといふは
其の事なりと云ふ

一 蘭（オランダ）の事なりと云ふは其の産所なりといふは其の産所なりといふは
其の事なりと云ふ
梵漢諸異邦の言語（オランダ）の常語となつたものなり
一 蘭（オランダ）の事なりと云ふは其の産所なりといふは其の産所なりといふは
其の事なりと云ふ
一 蘭（オランダ）の事なりと云ふは其の産所なりといふは其の産所なりといふは
其の事なりと云ふ

○ウナカゆる

曰くウナカゆるは其の産所なりといふは其の産所なりといふは
其の事なりと云ふ
答曰くウナカゆるは其の産所なりといふは其の産所なりといふは
其の事なりと云ふ
地は其の産所なりといふは其の産所なりといふは其の産所なりといふは
其の事なりと云ふ

ゆらそす」といひ和蘭語として「ゆらそす」といふと
 の血石とのまきかりり止血とぬ外にうつく機能あり「
 やゆん」といふは「ぢあゆん」となり硝子類を彫鑄する
 と此石を用い一體玲瓏なる玉石なり「
 わり摘芽は中一に出せ

○わふるいと うすていら

白ていらくわらるいと、かきてつくなどいふ菓子も
 と蜜製なりや 蜜いらくわらるいと



右「
 名「わらるいと」といふの糖なり「
 名「
 「
 耐へるものなりと軍陳長旅なり「
 とす

○わらんごふせ

ゆくいらくわらんごふせといふものなり「
 蜜名あり

だしその説いん 昔ていよく桃核とんぼか
て世るるのつものなふ舶来ふらつりの核仁こゝろなり和蘭おらんの
名なの向むかんでまんとしその詞ことばを轉まぐるまう支那しなの
てそ巴旦杏ばたんきやう五桃ごたうをいりまう

○番南瓜

甲あいよく近年番南瓜ばんなんかよく民列たみれつして常食じやうじき之を
そのわう元地名げんちめいなりその地方ちほういげまうぞく属ぞくする
まや 昔むかしいよく東藩とうはん塞さいかまへり一名真

臘ろうといふ印度いんどうより属ぞくする地ちなり此瓜こゝらの種子しゆんしむい
ま地の産うをまうりワわとまうるも地界ちがいを去され
風土ふうど記きといふ書しよより詳しやうなり

○ほろとがふ

甲あいよく倍ばいより續隨子じゆくじゆしをし用もちふとらとらといひ又抄しやう後
まおは係けいよりもわるとの油あぶらといふとのわう願ねがふ
その正説しやうせつを聞きん 答曰たふす「わうとら」をたふ
和蘭おらん地ちより西隅さいぐもよりの國くに名ななり支那しなの

て波木杜瓦^{ハキトワ}の音譯^{おんやく}を不名^{ふな}「ゆる」^{ゆる}と云ふは「ゆる」^{ゆる}と云ふは
 一國^{いこく}に船^{ふね}多く「ゆる」^{ゆる}と云ふは「ゆる」^{ゆる}と云ふは「ゆる」^{ゆる}と云ふは
 辞^{ことば}を方^{かた}「ゆる」^{ゆる}と云ふは「ゆる」^{ゆる}と云ふは「ゆる」^{ゆる}と云ふは「ゆる」^{ゆる}と云ふは
 「ゆる」^{ゆる}と云ふは「ゆる」^{ゆる}と云ふは「ゆる」^{ゆる}と云ふは「ゆる」^{ゆる}と云ふは「ゆる」^{ゆる}と云ふは
 ならば「ゆる」^{ゆる}と云ふは「ゆる」^{ゆる}と云ふは「ゆる」^{ゆる}と云ふは「ゆる」^{ゆる}と云ふは「ゆる」^{ゆる}と云ふは
 且^{かつ}と云ふは人のけと云ふは「ゆる」^{ゆる}と云ふは「ゆる」^{ゆる}と云ふは「ゆる」^{ゆる}と云ふは「ゆる」^{ゆる}と云ふは
 此^{こゝ}れを「ゆる」^{ゆる}と云ふは「ゆる」^{ゆる}と云ふは「ゆる」^{ゆる}と云ふは「ゆる」^{ゆる}と云ふは「ゆる」^{ゆる}と云ふは
 「ゆる」^{ゆる}と云ふは「ゆる」^{ゆる}と云ふは「ゆる」^{ゆる}と云ふは「ゆる」^{ゆる}と云ふは「ゆる」^{ゆる}と云ふは「ゆる」^{ゆる}と云ふは

けか^けと云ふは和菜^{わさい}地^ちありて専^{せん}に「ゆる」^{ゆる}と云ふは「ゆる」^{ゆる}と云ふは「ゆる」^{ゆる}と云ふは「ゆる」^{ゆる}と云ふは
 らゆる^{らゆる}と云ふは此^{こゝ}に「ゆる」^{ゆる}と云ふは「ゆる」^{ゆる}と云ふは「ゆる」^{ゆる}と云ふは「ゆる」^{ゆる}と云ふは「ゆる」^{ゆる}と云ふは
 の字^じ名^な「ゆる」^{ゆる}と云ふは「ゆる」^{ゆる}と云ふは「ゆる」^{ゆる}と云ふは「ゆる」^{ゆる}と云ふは「ゆる」^{ゆる}と云ふは「ゆる」^{ゆる}と云ふは
 む^むと云ふは「ゆる」^{ゆる}と云ふは「ゆる」^{ゆる}と云ふは「ゆる」^{ゆる}と云ふは「ゆる」^{ゆる}と云ふは「ゆる」^{ゆる}と云ふは「ゆる」^{ゆる}と云ふは
 を「ゆる」^{ゆる}と云ふは「ゆる」^{ゆる}と云ふは「ゆる」^{ゆる}と云ふは「ゆる」^{ゆる}と云ふは「ゆる」^{ゆる}と云ふは「ゆる」^{ゆる}と云ふは「ゆる」^{ゆる}と云ふは
 邦^{はう}豆^{まめ}州^{しゅう}「ゆる」^{ゆる}と云ふは「ゆる」^{ゆる}と云ふは「ゆる」^{ゆる}と云ふは「ゆる」^{ゆる}と云ふは「ゆる」^{ゆる}と云ふは「ゆる」^{ゆる}と云ふは
 本^{ほん}と云ふは「ゆる」^{ゆる}と云ふは「ゆる」^{ゆる}と云ふは「ゆる」^{ゆる}と云ふは「ゆる」^{ゆる}と云ふは「ゆる」^{ゆる}と云ふは「ゆる」^{ゆる}と云ふは
 ろ^ろと云ふは「ゆる」^{ゆる}と云ふは「ゆる」^{ゆる}と云ふは「ゆる」^{ゆる}と云ふは「ゆる」^{ゆる}と云ふは「ゆる」^{ゆる}と云ふは「ゆる」^{ゆる}と云ふは
 ろ^ろと云ふは「ゆる」^{ゆる}と云ふは「ゆる」^{ゆる}と云ふは「ゆる」^{ゆる}と云ふは「ゆる」^{ゆる}と云ふは「ゆる」^{ゆる}と云ふは「ゆる」^{ゆる}と云ふは

和蘭本草

二七

おが
連花實圖



藤原通記

ひふとがらむ

本名「おまのぬがらむ」

おま



二

野生
おまいぬ

は
う
む
枝
取
回



○こきんふよ

ひそいもく^{ミヤウヤ}系^{ミヤウヤ}名^{ミヤウヤ}中^{ミヤウヤ}「こきんふよ」和名^{ミヤウヤ}満^{ミヤウヤ}椰子^{ミヤウヤ}といふ物
をいふ^{ミヤウヤ}名^{ミヤウヤ}の^{ミヤウヤ}も^{ミヤウヤ}や
一^{ミヤウヤ}有^{ミヤウヤ}「こけい^{ミヤウヤ}を」といふ名^{ミヤウヤ}ありその^{ミヤウヤ}轉^{ミヤウヤ}る^{ミヤウヤ}か
ぶ^{ミヤウヤ}予^{ミヤウヤ}海^{ミヤウヤ}椰子^{ミヤウヤ}考^{ミヤウヤ}といふ書^{ミヤウヤ}を著^{ミヤウヤ}して^{ミヤウヤ}い^{ミヤウヤ}せ
洋^{ミヤウヤ}に^{ミヤウヤ}す

○なま^{ミヤウヤ}りて^{ミヤウヤ}こ^{ミヤウヤ}ぬ

向^{ミヤウヤ}て^{ミヤウヤ}曰^{ミヤウヤ}さ^{ミヤウヤ}う^{ミヤウヤ}て^{ミヤウヤ}こ^{ミヤウヤ}ぶ^{ミヤウヤ}と^{ミヤウヤ}い^{ミヤウヤ}ふ^{ミヤウヤ}その^{ミヤウヤ}あり^{ミヤウヤ}信^{ミヤウヤ}る^{ミヤウヤ}式^{ミヤウヤ}を^{ミヤウヤ}角^{ミヤウヤ}

楸といひ或は紅草ベニクサなりありありといふ元もと虫名むしなまの
 といふがしその説せついふん 是曰これいふ之類しゆいハ元もと坐ざ落らく
 ぬぐい「おぼて」を本もと好この事こと「おぼら」ハ地ち好この事こと
 和蘭わらん何なにもハ「おぼらん」と「おぼ」とハ地ち好この事ことといふ事こと
 唐たうは書かふ地ち皮ひ木ぼくといふ事ことの類しゆいなりん今いま世よの事ことを
 名な刺さ蛇へび木ぼくと称なづけりその事ことの類しゆいなり、角かく楸しゆ或あるは此こゝを
 「おぼ」といひ「おぼ」といふ事ことの類しゆいなり

○ 志し也やぼん

曰いて曰い石せき鹼げんを志し也やぼんといふ事ことなり

是こゝて曰い之これ類しゆいハ西洋せいやう雅が言げんの事こと「おぼ」といふの類しゆいを
 之こゝの和わ蘭らん必かならずし語ごを「せい」といふ事ことの類しゆいを
 用もちひて「おぼ」といふ事ことの類しゆいを「せい」といふ事ことの類しゆいを

○ 安あん産さん樹じゆ

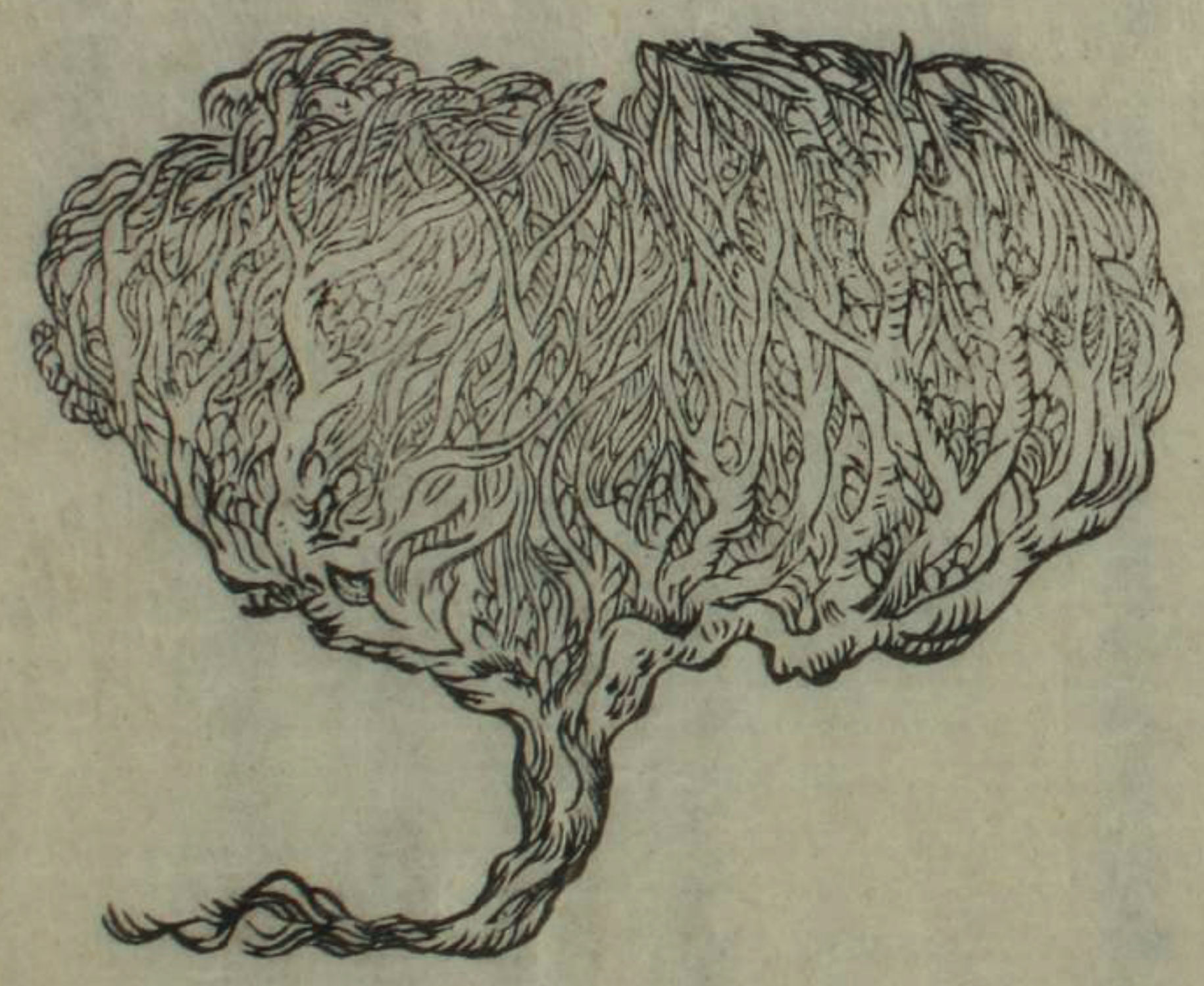
曰いて曰い世せ界かいノ安あん産さん樹じゆといふ事ことの類しゆいを「おぼ」
 水みづノ浸ひぎを出で産さんとせし「おぼ」といふ事ことの類しゆいを
 之こゝの事ことを「おぼ」といふ事ことの類しゆいを「せい」といふ事ことの類しゆいを
 用もちひて「おぼ」といふ事ことの類しゆいを「せい」といふ事ことの類しゆいを

和蘭通覽

三十一

國乃砂地すわち一いち生せいざるざる色のいろののくく和わ葉は名なをを引ひくく
 ろんろん色しきここじじとといい漢かん名な含くわん生せい草そうなりなりとといい王わう元げん
 美び彙い苑えん詳しょう註ちゆ婦ふ人にん雜ざ種しゆ産さんはは中ちゆう食じき之の立た産さん又また明めい
 其その汁じつ葉は如ごと卷けん柏はく而して大たい生せい于よ鞞けん國こく其その葉は煮ゆ之を不ふ熟じやく先せん
 毒どくととわわりり弱じやく説せつをを考かうすす一いち之の終しゆうはは後ご来らいれれ者しや説せつをを
 ととわわりり去きれれどどとと和わ葉は本ほん葉はすすりりをを湯たうでで写しゃしし
 してして又また國こくをを詳しょう説せつ摘てつ芳ほう中ちゆう一いち出しささりり

安産樹



○てまきせんていか

白曰「てまきんていか」といふものなほさのなりや

善て曰是を樹の脂なりは邦の櫛其本はそく

なる本とし品類ニ三種あり本名「てまきびんちか」

なり和名詞よく「てまきんていん」といふなり

そ指記を列し「譯文あり」

○「たいう」はさう

白て「てまき」世「たいう」はさうといふものなりい

たうものなりや 善て曰これ瓦笠地あり

産する「た」はあり」といふはごものありは腰中

「た」はありは癖石なり呼んで「た」はごものなり

といふ「た」は「た」はごものなりは法殿

よりあり癖石名その名はれごと大抵は名を称

は支那「た」はごものなり牛黄鹿玉狗宝

諸母馬黒うはは類ありなりは摘芳中よりと

ゆふ類及まは切能きを詳しと

○ぼろろ

同曰がうらうらな竹がや

また曰く牛乳

初文那まきいふ酪カウの歐羅巴人オウロパ常く食料

となすそのえけかごとカウ功能ありそのなり

蘭國通覽卷之上畢

漢書地理志

○ 漢書地理志

漢書地理志卷之九

漢書地理志卷之九

漢書地理志卷之九

漢書地理志卷之九

漢書地理志卷之九

